

平成30年12月7日(金)

「ノーブレス・オブリージュ」

高い地位や身分に伴う義務。ヨーロッパ社会で、貴族など高い身分の者にはそれに相応した重い責任・義務があるとする考え方。

知性と責任とは、このノーブレス・オブリージュの影響を受けていると思われます。学問を修めるべきは、やがて来る様々な人々や機会との遭遇において、社会的な貢献を果たす義務が課せられていると思います。国境を超え、時代を超え、文化を超え、知性を獲得したものが持つべき、重い責任と義務があり、個人的な利益を誘導することではない、崇高な意思をもって WORK をこなすべきであると考えます。

ということを含めて、長い間いつも思っていたのは、やがて出会うべき磐城高校生に何を語り、何を伝え、いかに進むべきかをどう話すかでありました。船がやがて、海岸に打ち上げられるように、私もまた、帰ってくることができました。

卒業して40年が経ち、磐城高校に来たことで今思うことは、磐城高校はそれでも同じ磐城高校であったということです。今さらながら磐城高校という場所と生徒たちに感謝しています。一人一人の学生は今を見つめ、『知性と責任』を深く考え、学びに向かっていることは長い年月の中で変わることはありませんでした。

時にくじけそうになったり、後ろばかり見つめるように萎えることがあっても、磐城高校生はもう一度打開する意思を呼び覚まします。その姿は、けなげで崇高で透明でしなやかでストイックであります。

今は、まだ、冬を迎え、ひたすら冷たさと寒さの中耐えながらも、力をためています。しかし、春は必ず来ます。必ず花は咲くのであります。

磐城高校生の血には、コバルトブルーが流れているのです。間違いなく、大きく羽ばたく日が来るのです。この歩みこそ、3万6千人がたどった道です。

**私は、心から信じています。必ず花は咲くのです。**